

Surrey

る。設備全般を制御す
送液電磁弁の閉鎖

の冷凍機メーカーへ、長谷川鉄工（社長：長谷川誠司氏、本社：大阪市港区波除1-1-4）はアーモニア冷媒の漏洩対策で、低温施設用の新システムを開発した。アーモニア検知に特化した低湿度ガス検知警報器と制御システムが停止する仕組みで、転を行い、ユーティック一ラーム内のアーモニアをはじめ、クーラーと冷凍機を結ぶ送液配管や吸入配管内のアーモニアを冷凍機側に回収する。すべての回収作業を終えると、冷凍機

長谷川鉄工

NH₃漏洩対策で低温施設用新システム

モニア・ディテクト&リカバリーシステム(ADDRS)。主に冷冻・冷藏庫内のユニットクーラーのアンモニア漏洩対策として開発しました。長谷川社長は「コントロールバルブや配管系の漏洩対策を万全に講じている当社だが、万一の可能性を考えたときは、クーラーからの微量の漏れ。今回の開発ではこの点の対策にこだわった」と話す。ADDRSのシステム構成は、まずユニットクーラーのヘッダー部などピンポイントに50ppm以下の低濃度のアンモニアを検知する高性能センサーを設置。センサーが微量のアンモニアを検知した場合、センサーからの信号が庫外のトランスマッターを介して、冷冻・冷藏設備御盤内にある受信警報部まで届く。これを受け瞬時に制御システムが稼働

NH₃漏洩対策で低温施設用 アソニニア冷凍機の負荷を軽減しながら アソニニアを冷凍機側に引き込む技術について、蓄積したノウハウを生かして。検知警報器はゼンサー×オニクス機器（社長：小宮弘一、東京都東大和市）と共同開発した。電気化学センサーによる濃淡電極方式を採用しておらず、低温環境（零下25度C以下）での使用が可能。検知対象を冷凍庫内（アソニニアガス）とし、干渉ガスが少なく、特に100%水素ガスにも干渉しない。